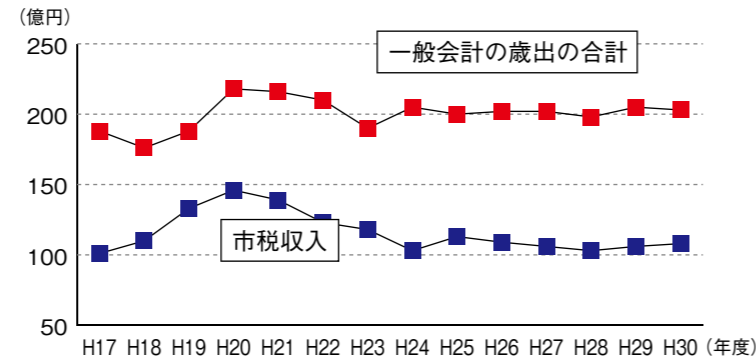


決算経過

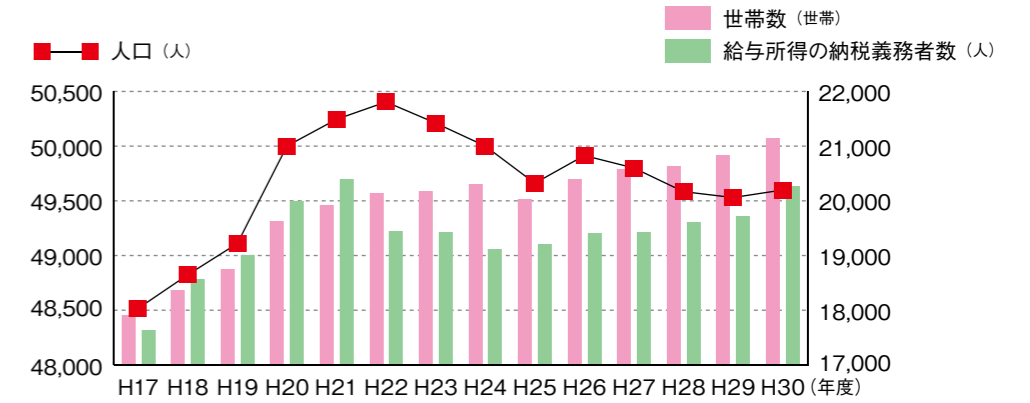
亀山市は、今後の市税の減収や普通交付税の段階的な減額が見込まれる中で、引き続き、行財政運営に創意工夫が求められています。

●一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



●人口・世帯数・納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
※給与所得の納税義務者数は7月1日現在



歳入の経過

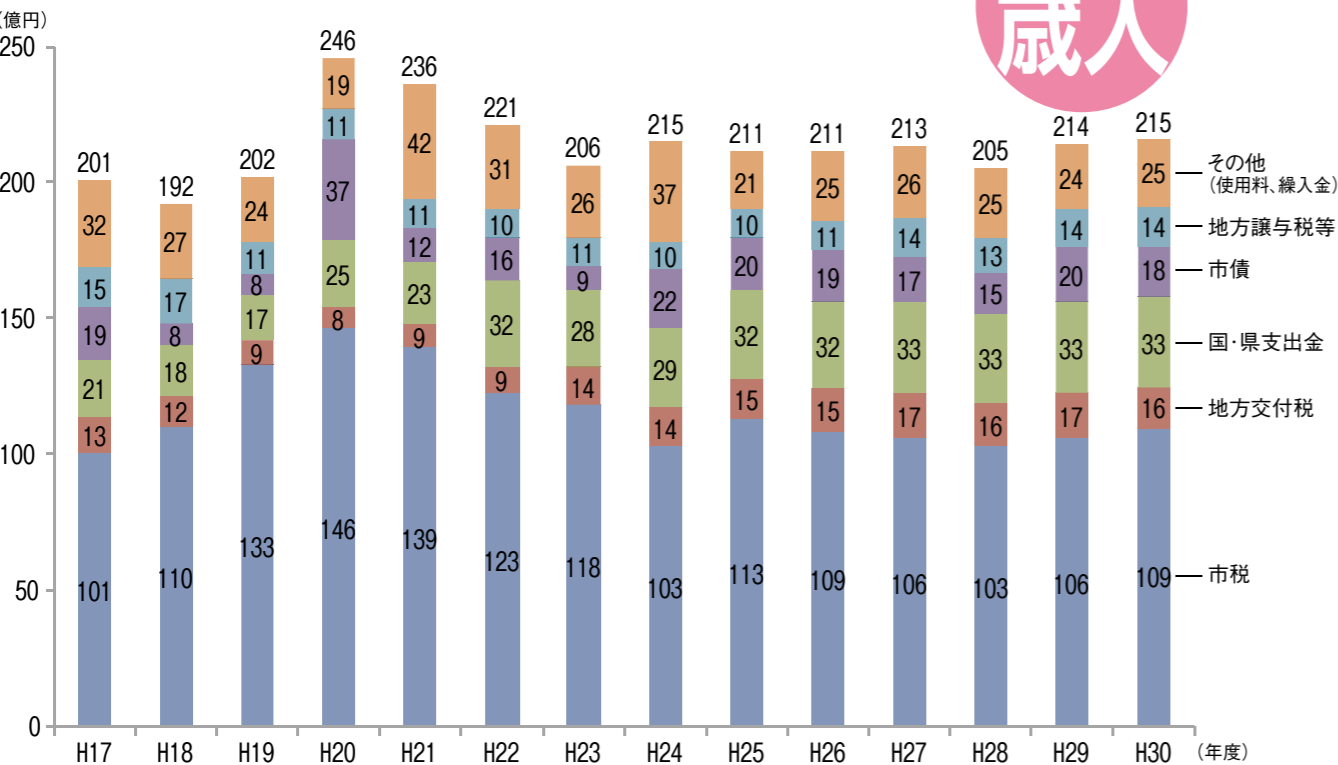
人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となった以降は減少していましたが、平成30年度決算では109億円と前年度より約3億円の増収となりました。

平成30年度に関しては、企業業績反映による法人市民税や固定資産税の償却資産の増収等により一時的に増加しましたが、今後も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は33億円、地方譲与税等は14億円となり、前年度並みでした。地方交付税は16億円となり、前年度と比較して減少しました。

市債(借金)は、臨時財政対策債、学校教育施設整備事業などの財源を借り入れましたが、前年度より2億円減の18億円となりました。

その他の収入は、使用料や繰入金などで25億円となり、前年度と比較して1億円増となりました。



市税…市民税、固定資産税、たばこ税など
地方交付税…国税のうち市の取り分として交付されたお金
国・県支出金…国や県が市に対して支出したお金
市債…市が国や銀行から借入れたお金

地方譲与税…国税・県税のうち市の取り分として譲与されたお金
使用料…市営施設の使用料など
繰入金…市の基金から引き出したお金など

歳出の経過

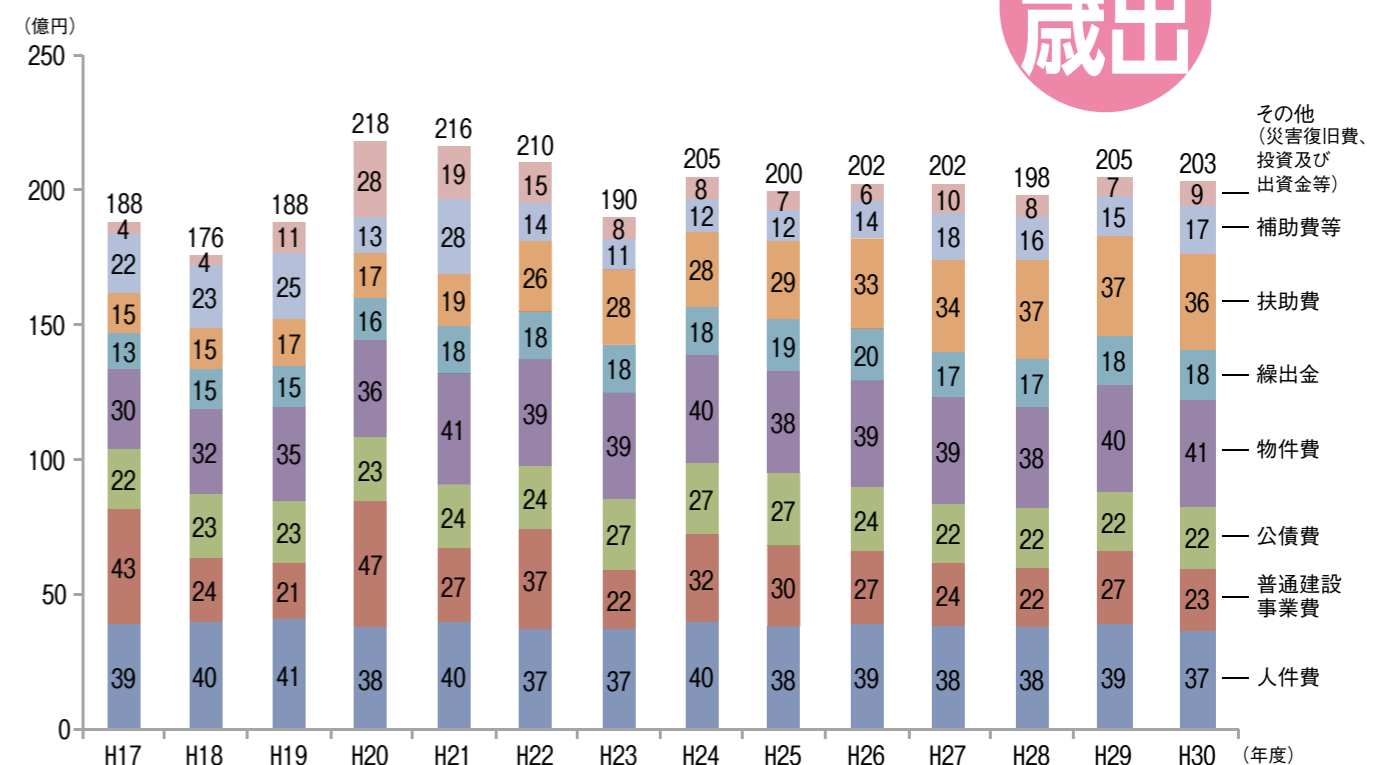
人件費は前年度より2億円減の37億円、扶助費は前年度より1億円減の36億円となりました。

補助費等は、亀山駅周辺整備事業等の増加が要因となり、前年度と比較して2億円増の17億円、繰出金は前年度並みとなりました。

普通建設事業費は、前年度より4億円減の23億円となりました。減少要因となった主な事業は、川崎小学校改築事業、刈り草コンポスト化センター環境整備事業、防災基盤整備事業等です。

公債費(借金の返済)は、前年度並みの22億円となりました。

物件費は、前年度より1億円増の41億円となりました。物件費は歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設など各種施設の運営に係る経費削減を徹底する必要があります。



人件費…市職員の給料や議員報酬など
普通建設事業費…道路・学校・庁舎など、公共・公用施設の新築・改修に使ったお金
公債費…市債の元金・利子や一時借入金の利子
物件費…光熱水費、消耗品費、業務委託料など
繰出金…下水道事業や国民健康保険事業などの他の会計へ繰り出すお金

扶助費…生活保護、障がい者支援、医療費助成など福祉に使ったお金
補助費等…報償費、負担金、補助金など
災害復旧事業費…大雨、暴風などの災害により被災した設備を復旧するためのお金
投資及び出資金…財産を有利に運用するための投資や他団体への出資金など